

北のとびら

vol. 99

平成26年1月



特集

コトニ夢映画制作プロジェクト

子どもたちが創った街の映画
『茜色クラリネット』

この人に注目

東海林 靖志

浜田 純平

堀川 那奈子

街歩きアート

時代の面影をとどめる街で
函館情緒と個性的な文化に触れる
[函館市・西部地区]

フォト・エッセイ

石川 直樹

表紙作家の紹介





大人病にかかる友人・藍役、森田有紀さん（信濃中2年生）
2012年からワークショップに参加、昨年も役者チームで活躍した



主人公・茜役、佐藤楓子さん（藤女子中2年生）
昨年度のワークショップ『僕らの興味期限切れの夏』も役者チームに参加した



監督の坂本優乃さん（札幌北高1年生）
子ども映画制作ワークショップには役者、演出担当を経て、昨年度は応募した脚本が採用された

監督は、高校1年生の坂本優乃さん。主演の佐藤楓子さんをはじめとした主要キャストはもちろん、演出、進行係、カメラや音声などの技術スタッフも全員、中学生と高校生。資金調達や関係機関への手続き、演技や技術の指導、大人役のキャスト、編集作業などは大人が行っていますが、「僕らは子どもたちが作りたい世界、撮りたい映像の手助けをしただけ」と、指導監督を務めた札幌在住の映画監督・早川渉さんは言います。脚本は一般公募から選ばれた作品『茜色クラリネット』。子どもたちは昨年5月から週末ごとに集まり、夏からの撮影に向けて準備を進めました。

「コトニ夢映画制作プロジェクト」の背景には、2005年から札幌市内で行われてきた、NPO法人北海道コミュニティシネマ・札幌による「子ども映画制作ワークショップ」があります。中学生による短編映画制作の取り組みは、回を重ねるごとにレベルアップ

短編映画づくりからステップアップ



屯田兵による開拓というルーツを持つ琴似地区は、昔ながらの商店街と近代的な大型店舗が共存する個性的なエリアです。界限には劇場やギャラリーもあり、文化的な取り組みを歓迎する気風があります。「より地域に密着した映画づくりを」と考えた北海道コミュニティシネマ・札幌はこのエリアに着目。琴似地区の活性化のため、街づくり講座やイベントなどを企画している「土曜はコトニ実行委員会」代表の久住邦晴さんに声をかけました。

『土曜はコトニ』は、人が集まる魅力的な街にしていきたい、という想いで始めた取り組み。人が集まるのであれば、だいたいのこと

制作を盛り立てる人々のつながり

プ。昨年、6回目の制作となった短編『僕らの興味期限切れの夏』が高い評価を受けたことから、中学生とワークショップ参加OBの高校生による「集大成としての長編映画づくり」に挑むこととなりました。



特集 コトニ夢映画制作プロジェクト 子どもたちが創った街の映画 『茜色クラリネット』

「大人が観てもおもしろい映画を、自分たちの手で創ろう」。子どもたちの映画制作への興味と情熱をサポートしたのが、「コトニ夢映画制作プロジェクト」です。札幌市西区の琴似エリアを舞台とした長編映画『茜色クラリネット』、その誕生の背景をご紹介します。

3月22日(土)より
シアターキノにて公開
他全国順次公開





『茜色クラリネット』上映予定

2014年3月22日（土）より、シアターキノ
（札幌市中央区狸小路6丁目
南3条グランドビル2F ☎011-231-9355）
にて公開。
以降、全道・全国で公開予定。



【ストーリー】

コトニ中学校に通う茜が、親友の夏輝、新聞部員の大西とともに、コトニに蔓延する「大人病」の謎を追ひ、事故で意識不明のまま入院している同級生・藍を救おうと奮闘。コトニのキャラクター「トニ子」と大人病の関係に気付くが、解決方法がわからず…。夢の中に入ったり、着ぐるみであるトニ子が怪物化したりと、ファンタスティックな展開の中で、子ども達が考え、成長する様子が描かれる。

「コトニ夢映画制作プロジェクト」は「北海道文化財団まちの文化創造事業」として共催しています。

携わった子どもたちは「初めて参加したけど、楽しかった」「去年よりも現場の空気を読んで動けるようになった」「もっと撮影してみたい」「来年もやりたい」と、口々に喜びや達成感を語りました。
久住さんは「この映画をきっかけに街の絆が深まった。また、映画が琴似を知ってもらう機会になる。今後の街づくりにどう活かすかはこれからですが、子どもたち

の一生の財産となる体験を琴似が提供できた。それだけでも素晴らしいこと」と満足げ。早川渉監督も「大人の観賞に耐える映画として完成している。多くの人に観てもらいたい」と完成の喜びを語りました。
子どもたちの熱い夏が詰まった『茜色クラリネット』、全国上映に向けた活動は、これから本番を迎えます。



プロデューサーの一人、久住邦晴さん（「土曜はコトニ実行委員会」の代表）



事務局を担当する長野円さん（「土曜はコトニ実行委員会」の事務局担当）



指導監督を務める早川渉さん（映画監督・CMディレクター）

はやっちゃおう、というノリがあります」と久住さん。映画制作の話を持ち帰ると、すぐに「おもしろそう」と盛り上がり、実行委員会を立ち上げて準備に取りかかりました。
「地域の方に映画制作の話をしたところ、興味を持って、積極的に関わってくれる人が多かったんです」。そう教えてくれたのは、プロジェクト事務局を担当する長野円さん。ロケ中の毎日のお弁当手配、駐車場、打ち合わせ場所、ロケ場所としての個人の家や店舗のアイデアなど、地域の方々がそれぞれのネットワークを駆使して協力してくれたそうです。資金集めのための1口30000円の市民サポーターにも多くの協賛が集まりました。

熱い夏の映画、 全国上映へ

『茜色クラリネット』のクランクインは、夏休み期間中の7月28日。JR琴似駅前の夏祭り会場が最初のロケ地となりました。坂本監督が会場のステージに登り、

北海道のまちの映画づくり

田んぼdeミュージカル委員会

むかわ町（旧穂別町）

地域の高齢者による映画制作として話題を集めた『田んぼdeミュージカル』の誕生が2003年。以降、『ラ・リズィエール田んぼdeファッションショー』『いい籬のライダー』『赤い夕陽の籬yulie』と制作を重ね、2013年、第5作『紅い花 白い花 咲き乱れ』の制作着手が発表されました。合併によって誕生したむかわ町が2016年で10周年を迎えることから、これを記念しての制作となります。

農業と家族の物語、穂別の衣食住、村の合併、炭鉱の思い出など、まちの歴史を踏まえてきたこれまでの作品。今回は戦後のまちの移り変わりが垣間見える展開だそうです。映画づくりの中心スタッフは平均年齢80歳以上ですが、初めて町内からキャストやスタッフを募集し、子どもも多く参加するとのこと。1月中にキャスティング、2月にはクランクインの予定です。



第3作『いい籬のライダー』では市町村合併問題で年寄りが暴走



第4作『赤い夕陽の籬yulie』は、西部劇仕立てのミュージカル

旭川で映画をつくろう! プロジェクト

旭川市

「旭川は自分にとって“原風景”で、ここでしか撮れない映画がある。また、生まれ育った街への恩返しという気持ちもある」と語るのは、旭川出身の映画監督・鈴木聖史さん。鈴木さんの想いに共鳴して、旭川東高時代の同級生などを中心にサポートチームが生まれ、その輪は「旭川で映画をつくろう! プロジェクト」へと繋がっていきました。昨年8月には、現在企画中の長編旭川映画『空の色（仮）』のプロモーション用短編映画『空の色』を制作し、披露試写会を実施。2014年の4月を目標に長編の撮影に入る予定です。「劇場公開で全国に旭川の風景を届けたい」と鈴木さん。完成は10月頃を目標としています。



プロモーション用短編映画『空の色』のラストシーン。旭川市内「5・7小路ふらりーと」で撮影



「これから撮影をさせていただきます」と挨拶して撮影がスタート。「通常は『撮影はこの範囲まで』という制限が付くのですが、大変おおらかに受け入れてくれました」と早川指導監督は言います。来場者の多くが、映画に登場する琴似のイメージキャラクターにして子どもたちの敵役「トニ子」のお面をかぶり、エキストラとして参加しました。

地域と一体となつての映画制作にふさわしいスタートを切った撮影は、夏の2週間、学校、商店街、古書店、市場など、琴似エリアの各所で行われ、琴似神社でのクライマックスシーンでクランクアップ。その後、編集、アフレコ録音、主題歌録音を経て、11月17日、琴似にある劇場施設「コンカリーニョ」で、関係者向け完成披露上映会が行われました。

坂本監督は「完成した映画のエンドロールの長さを見て、協力して下さった方の多さ、このプロジェクトの大きさを実感しました。すぐく貴重な経験の機会をいただいて、これを無駄にしないようにしたい」とコメント。制作に

浜田 純平

Junpei Hamada

大学一年生で創作舞踊コンクール「アーティストック・ムーブメント・イン・トヤマ」の北日本新聞社賞を受賞し、道内外から注目を集めた浜田純平さん。翌年、翌々年は富山県知事賞を受賞し、今年1月には上位受賞者が出演する「座・高円寺ダンスアワード」に二度目の出演を果たしました。

小学生の頃に、現在も所属する「ダンススタジオマインド」でジャズダンス、ヒップホップなどを習い始め、その後、コンテンポラリーへと関心の領域を拡大。近藤良平さん、柳本雅寛さん、島地保武さんなど来道したコンテンポラリーダンサーの作品にも参加しており、今年2月には横浜ダンスコレクションEXの本選への参加を予定しています。

また、北海道大学のダンスサークル「junction」でも活動。現在は北海道学生ダンス連盟spark理事長として、学生ダンスシーンを牽引する存在です。

■出演予定
2月4日(火)～9日(日)／横浜ダンスコレクションEX2014
会場：横浜赤レンガ倉庫1号館
問い合わせ：公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団
☎045-211-1515



「アーティストック・ムーブメント・イン・トヤマ」での受賞作品。左から、2013年『Dear Newton』、2012年『川』、2011年『I am You 自分じゃない自分』
撮影：堀 一人

堀川 那奈子

Nanako Horikawa

ニューヨーク州立大学でダンスの学位を取得し、2012年に帰国した堀川那奈子さん。6歳でバレエを習い始め、その後子どもミュージカルに出演したことをきっかけに、ジャズダンスやタップダンスなどを学びました。「世界の舞台で活躍できる表現者になりたい」との思いから留学した大学では、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなどを基礎から学び、現地に拠点を持つカンパニーのメンバーとしても活動。また各振付家の作品にフリーランスダンサーとして出演したほか、スペイン、ルーマニア、モルドバでのチャリティー公演、フランスや日本で自主公演(ピアノとのコラボレーション)を行ってきました。

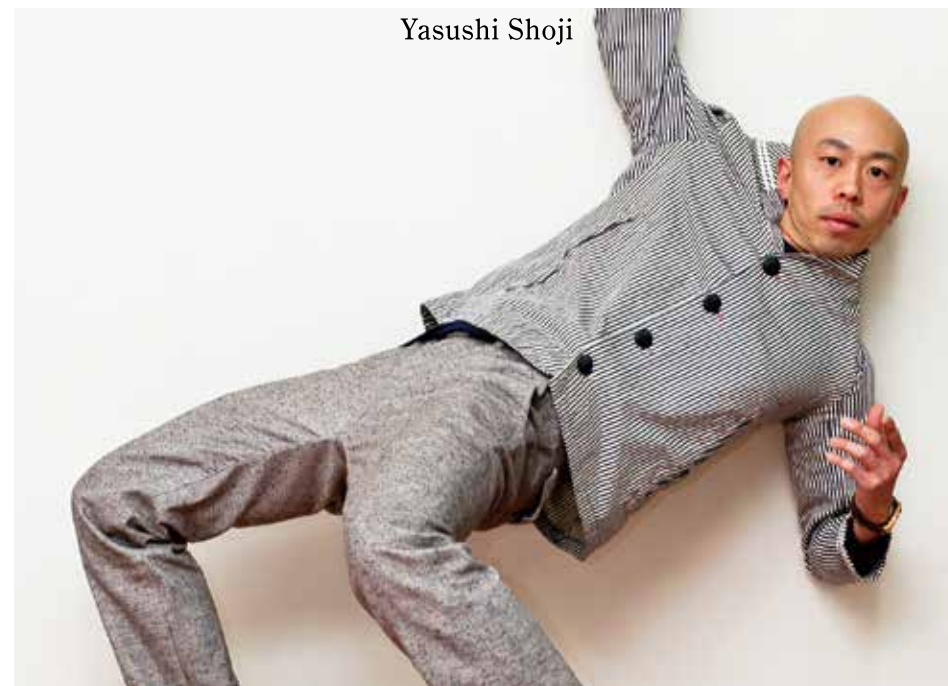
帰国後は、山田勇氣さん振付作品で「踊りに行くぜ! II vol.3」、渡部倫子さん振付作品で北海道現代舞踊公演「Standing Space 2013」、劇団千年王國「ローザ・ルクセンブルク」に出演。活動の領域を広げつつある、今後が楽しみなダンサーです。



左から、2011年『Individuation』New York, NY、2012年『WA~Dance & Piano~』Santiago de Compostela, Spain、2011年『TWO』Brockport, NY

東海林 靖志

Yasushi Shoji



今まさに活動が波にのっている、札幌在住のダンサー。近年、小樽出身の平原慎太郎さんを始め、島地保武さん、森山開次さん、柳本雅寛さんなど名だたるダンサーの作品に続けて出演し、また昨年は、劇団intro、劇団千年王國、北海道二期会の作品を振付して、北海道の演劇・オペラシーンにその存在を知らしめました。

16歳でヒップホップを踊り始め、ストリートで出会った平原慎太郎さんの影響でコンテンポラリーに関心を持つように。そして、山海塾の舞踏手でもある岩下徹さんの踊りを見て衝撃を受け、コンテンポラリーとしての身体表現の追求を始めたそうです。

20代前半は会社勤めをしつつ、オーディションを受けるなど道を模索。しかし「Noism」代表の金森譲さんからの「カンパニーに属さずそのままやっていくほうがいい」との助言を受けて、自分のペースで踊っていくことを選びました。

2006年からは、平原さんらとの「瞬project」で本格的に公演・創作活動をスタート。島地保武さん振付『藪の中』への出演を機に「踊りを中心とした環境を作ろう」と会社を退職し、2012年、「札幌のコンテンポラリーダンスの拠点となる空間を」との思いから、ダンススタジオCONTEの設立に尽力しました。現在は一講師としてCONTEの活動に参加しています。

秋に平原さん主宰「OrganWorks」の作品に参加するほか、既に今年の出演・振付が多数決定。ストリートカルチャーから派生し深化させてきた東海林さん独自の舞踊表現を、さまざまなシーンで観ることができそうです。

■出演予定
1月18日(土)～25日(土)、2月2日(日)～10日(月)／intro『言わざ』
※振付で参加
会場：生活支援型文化施設コンカリーニョ
問い合わせ：NPO法人コンカリーニョ ☎011-615-4859

3月29日(土)・30日(日)／『響線』
会場：鎌倉・長谷 gallery&cultureスペース『see saw』
問い合わせ：info@seesaw-oba.com(小畑 大輔)



新国立劇場 森山開次『曼荼羅の宇宙』内「書」
撮影：井上嘉和



セルリアンタワー能楽堂 島地保武『藪の中』
撮影：TOSHI HIRAKAWA



Theater X OrganWorks公演『Grease2』
撮影：大洞博晴

時代の面影をとどめる街で 函館情緒と個性的な文化に触れる 〔函館市・西部地区〕

函館山の麓から函館湾に向かって広がる
西部地区周辺には、
歴史的な建造物や資料が数多く残されています。
古い時代の名残が人々の生活の中に息づき
新旧の文化が調和したエリアでは
ハイカラな風土や精神が今も引き継がれています。



函館を舞台にした映画の話に耳を傾ける。

① カフェ&バー やまじょう

1階が和風、2階が洋風という、函館の典型的な和洋折衷建築を利用したカフェ。ロケーションコーディネーターとしても活躍する店主の太田誠一さんは、函館を舞台にした映像作品に精通する人物。故森田芳光監督とも親交が深かったことから、店内の一角には「モリタヨシツメモリアルスペース」が設けられ、森田作品に関する資料や写真などが展示されています。撮影にまつわる貴重なエピソードはもちろん、函館の見どころや魅力なども聞きながら、楽しい時間を過ごせるスポットです。

●函館市元町30-5
☎0138-27-2370
◎11:00～23:00
◎定休日/水曜



繊細で多彩な陶器作品との出会い。

② スタジオ・オーバル

陶芸家の芋坂恒治さんと版画家の弥生さん夫妻の作品を展示するギャラリー。元町には天然酵母パンの店「tombolo」と併設のギャラリーが、船見町には工房とギャラリーがあり、主に陶器作品を展示しています。注目は、伝統的な赤絵付けのほか、現代では数少なくなった塩釉（えんゆう）という技法を用いた陶器も製作していること。日常に使える食器類を中心に、時計やオブジェなどの多様な作品が見られるほか、tomboloのイートインでは実際の陶器作品でコーヒーなどを味わうこともできます。

●元町ギャラリー：函館市元町30-6 ☎0138-27-7780
◎11:00～17:00 ◎定休日/月・火曜（祝日に重なった場合は翌日に振り替え）
●船見ギャラリー：函館市船見町7-22 ☎0138-22-3816
（不在の場合もあるため、事前に要予約） ◎不定休
<http://studio-oval.jpn.org>



築100年を超える商家建築でひと休み。

③ 太刀川家住宅店舗 〔TACHIKAWA CAFÉ〕

海運業で財を成した太刀川家が1901年（明治34年）に建造した住宅兼店舗。明治の貴重な商家建築として、1971年に国の重要文化財に指定されました。れんが造の壁の上に漆喰を塗り、防火用そで壁を設けることで耐火性を高めてあり、和風建築ながら1階正面にアーチのデザインを用いるなど、洋風の技術も使われているのが特徴です。カフェに改装された内部には、重厚な柱や梁などが残され、当時の趣を感じながらスイーツや軽食を楽しめるようになっています。

●函館市弁天町15-15 ☎0138-22-0340
◎10:00～18:00（11月～3月は11:00～18:00）
◎定休日/月曜
<http://www.tachikawacafe.com>



column

街並みに残された 歴史の記憶をたどる

西部地区には、明治から大正期にかけて造られ、今も使われ続けている設備が点在します。末広町の二十間坂沿いに立っているのが、1923年（大正12年）に造られた日本最古のコンクリート電柱。火事に強く、西洋建築と調和するようにということから、コンクリート製の四角いデザインが採用されました。また、函館漁港に近い入舟町には、珍しい四角いマンホールが残されています。明治中期に下水道の整備が行われた際に用いられたもので、現在はほとんどが姿を消してしまったという稀少な歴史資料です。このほかにも、昭和初期から使用されている「函館型三方式地上式消火栓」など、街並みのあちらこちらに古い時代の面影が残されています。



6 日本最古の
コンクリート電柱

7 四角いマンホール

函館型三方式
地上式消火栓

地元工芸作家の優れた作品を紹介。

④ ギャラリー村岡

「函館のものづくり文化を大切にしたい」という思いから、オーナーの村岡武司さんが1990年に開設。有名、無名に限らず、函館とその周辺地域で活動する工芸作家を中心に、道内全域や本州、海外まで、幅広い作家の作品を展示しています。木工やステンドグラス、革工芸や木版画など、作り手のこだわりと愛情が込められた作品は、大量生産にはない魅力が。常設展示のほかにも、作家の個展や企画展なども開催しています。

●函館市元町2-7 ☎0138-27-2961
◎10:00～19:00 ◎定休日/水曜
<http://www.gmuraoka.com/>



大正時代から続く老舗の銭湯。

⑤ 大正湯

創業は1914年（大正3年）。その後、1927年（昭和2年）に建て替えられた建物で、今も営業を続ける銭湯です。2階建ての木造洋館建築は、左右対称の造りや三角形の破風など、当時の流行が反映されています。中に入るとおかみさんが番台で迎えてくれる、昔ながらのスタイル。建築時のままの脱衣所の天井やタイル、古い体重計など、レトロな雰囲気を楽しみながら、のんびりお湯に浸かるのもいいものです。

●函館市弥生町14-9
☎0138-22-8231
◎15:00～21:00（日曜は20:00まで）
◎定休日/月曜・金曜
◎入浴料 大人420円



表紙作家の紹介



旅の途中

果澄 作家

kasumi

1987年生まれ／札幌在住
現在北海道を拠点に制作活動

〔個展・グループ展〕

2009年 個展「光と影の世界-START LINE-」/ さばらホール

2010年 Blakiston - 札幌駅ARTBOX・優秀賞受賞
「a stratum-地層とともに眠る記憶-」

2010年 個展「Atelier-変化する個展-」/ 日本生命ビルstation999

2011年 企画展出品「GIFT-贈り物-」/ 4pla hole

2011年 個展「くじらだって空をおよがせればいいじゃない」
日本生命ビルstation999
開期中ガーデン内にてライブペイント

2012年 個展「トムラウシ-光と影の世界-」/ 上野ファーム NAYA'cafe garally

2012年 札幌芸術の森美術館「パラレルワールド冒険譚」出品
開期中オープニングイベントにてライブペイント 8M×3M

2013年 カンパーナ六花亭美術館 - 神々の遊ぶ庭
個展「太陽の物語り」

2013年 個展「Life is Beautiful.」/ 大丸藤井セントラルスカイホール



〔ライブペイント〕

2011年 JOIN ALIVE ライブペイント 11M×910cm

2012年 GAIA NIGHT【大地の声に耳を澄ませて】キャンドルアート&ライブペイント

2012年 札幌駅前通地下歩行空間-豊栄建設広告【The home of NortharnLand】13M×2M

◎北海道文化財団アトスペース企画展

果澄 展

会期:平成26年2月4日(火)～平成26年3月28日(金) 9:00～17:00

休館日:土・日・祝日 ※都合により臨時休館する場合があります。

会場:北海道文化財団アトスペース(札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F)

入場料:無料



鯨のいる風景



シロクマが夢見たもの

フォト・エッセイ③

文／写真 石川 直樹 Naoki Ishikawa



最初で最後の写真展

ヒマラヤのアマダブラムという山から帰国して一週間が過ぎた頃、ぼくは北海道の女満別に飛んだ。まだヒマラヤボケから抜け出せず、山で患ったしつこい咳も治っていなかった。

女満別に行ったのは、大空町で小学生と写真のワークショップを行うためである。この町にある豊住小学校は来年度廃校になることが決まっており、校内で「最初で最後の写真展」を開こうと、二日間にわたって子どもたちと過ごすことになったのだ。

写真を撮り始める前に、まずは子どもたちに、世界中で出会った人と文化の話をした。みんな前のめりになって聞いてくれるのだが、中でも小1の子たちが躊躇なく手を挙げて質問してくる姿勢が素晴らしい。人見知りをしていない子どもたちと対話を繰り返していると、ぼく自身も元気になる。

それぞれ家からデジカメをもってきたもらい、周辺を歩きながら写真を撮った。家族のカメラなので、それを独り占めして使ったことがなかったらしく、みんな楽しそうに撮影している。

全校生徒数が30名にも満たない小さな学校なので、それぞれの子ども顔と名前を覚えられるのが、ぼくとしても嬉しかった。給食を一緒に食べたり、トランポリンをしたり、放課後の相撲大会に参加させてもらったりしながら、徐々に子どもたちと仲良くなっていた。展覧会が完成し、「内覧会」と称してみんなで写真を眺めた。お世辞抜きで面白い写真展になったと思う。

彼らは来年から、より大きな小学校に編入を余儀なくされる。それぞれの顔の見える豊住小学校はなくなってしまうが、写真は残る。これらの写真で写真集を作ろうと、いま画策中である。



石川 直樹
(写真家)

1977年東京都出身。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。高校断プロジェクト「POLE TO POLE」に参加し、北極から南極を人力踏破。翌年に七大陸最高峰登頂を達成。旅などをテーマに写真や文章を発表し続けている。2009年東川賞新人作家賞受賞。2011年土門拳賞受賞の写真集『CORONA』（青土社）、2008年開高健ノンフィクション賞受賞の『最後の冒険家』（集英社）など、著作・写真集多数。

財団事業インフォメーション（平成26年2月～平成26年3月）

まちの文化創造事業（ギャラリープログラム）

●防風林アートプロジェクト2013-14

▷風と森の共振「防風林」アート野外展示
十勝の原風景ともいえる耕地防風林とその周辺の雪原を舞台に、道内美術家約40名によるインスタレーション等の作品を展示します。

会期：平成26年2月1日（土）～2月16日（日）
10:00～15:00

会場：空港線沿い防風林及び雪原
（帯広市愛国町東1線9番地周辺）

入場料：無料

▷「防風林」アート参加作家展

防風林アートのインフォメーションを兼ねた小品展を開催します。

会期：平成26年2月1日（土）～
2月16日（日）10:00～18:00

会場：帯広市民ギャラリー
（帯広市西2条南12丁目
JR帯広駅地下）

入場料：無料

問い合わせ：

帯広コンテンポラリーアート

実行委員会

info@tokachiart.jp



アートシアター鑑賞事業

●Ezo'n コンサート

□美深公演

日時：平成26年2月8日（土）14:00開演（13:30開場）

会場：美深町文化会館（中川郡美深町字西町22番地）

入場料：前売 一般1,000円 高校生以下500円

当日 一般1,500円 高校生以下1,000円

問い合わせ：

COM100文化ホール

自主事業実行委員会

☎01656-2-1744



●富良野GROUP「マロース」

□幕別公演

日時：平成26年2月6日（木）19:00開演（18:30開場）

会場：幕別町百年記念ホール（中川郡幕別町千住180-1）

入場料：前売 A席3,500円 B席3,000円

当日 A席4,000円 B席3,500円

問い合わせ：

幕別町百年記念ホール

事務局

☎0155-56-8600



□七飯公演

日時：平成26年2月12日（水）19:00開演（18:30開場）

会場：七飯町文化センター（亀田郡七飯町本町6丁目1-2）

入場料：前売 一般3,000円 高校生以下1,500円

当日 一般3,500円 高校生以下2,000円

問い合わせ：七飯町文化協会 ☎0138-66-2066

●トム・プロジェクト「案山子」

□大空公演

日時：平成26年2月26日（水）19:00開演（18:30開場）

会場：大空町教育文化会館

（網走郡大空町女満別西3条4丁目1-11）

入場料：前売 一般3,000円 学生1,500円

ペア5,500円

当日 一般3,500円 学生2,000円

ペア6,000円

問い合わせ：

大空町教育文化会館

☎0152-74-2367



□士別公演

日時：平成26年2月28日（金）19:00開演（18:30開場）

会場：あさひサンライズホール

（士別市朝日町中央4038）

入場料：前売2,000円 当日2,500円

問い合わせ：あさひサンライズホール

☎0165-28-3146

□伊達公演

日時：平成26年3月2日（日）17:00開演（16:30開場）

会場：だて歴史の杜カルチャーセンター

（伊達市松ヶ枝町34-1）

入場料：前売 一般3,000円 学生1,500円

当日 一般3,500円 学生2,000円

問い合わせ：NPO法人伊達メセナ協会

☎0142-22-1515

まちの文化創造事業（シアタープログラム）

●三木露風没後50年記念・永遠にあかるく音楽会 創作合唱劇「赤とんぼ」

日時：平成26年3月16日（日）14:00開演（13:30開場）

会場：北斗市総合文化センターかなで〜大ホール（北斗市中野通2丁目13番1号）

入場料：前売・当日 一般1,000円 子ども500円

問い合わせ：永遠にあかるく音楽会実行委員会 ☎0138-75-2986

